

Y's Men International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMI ワールド
2021-2022 No.2
日本語版



YMI-YMCA: 世界のミッションのパートナー / YMCA との繋がり / 効果的なリーダーシップの3つの要素 / YMI の法人格取得と法的地位 / COP26 - この騒動は何なのか / 会員増強、いいえ、ワイズ運動成長への想い / ユースは浪費されているか / 地域からのニュース: UAE、ロシア、日本、インド、デンマーク、台湾、フィリピン、香港、カナダ、スリランカ / 100周年記念祝歌-「より良い場所に」 / 魂の真言-平和の歌を口ずさむ / 歴代国際会長 (1986-1998)

編集長のページ

読者の皆さまへ



待ちに待った100周年まであと少しです。私たちの運動の歴史において、間違いなく画期的な年です。この2年間、私たちは、世界を巻き込んだパンデミックのために、直接顔を合わせるという特権を得ることができませんでした。2020年と2022年の国際大会を中止し、その代わりに2022年末に台北で盛大に開催することを計画しました。特に新オミクロン株が、世界各国で急速に感染拡大している最中、予定どおりに開催されることを祈るばかりです。100周年を迎えるにあたり、私たちは、「チャレンジ22」というコンセプトを打ち出し、100周年を記念すべき年にするための具体的なアクションを次々と提案してきました。

そのグランドデザインの一環として、私たちの創設者であるポール・ウィリアム・アレキサンダーの遺産を尊重することにしました。トレドにある無名の墓が、ようやく見つかり、墓石を建てることができました。オハイオ州トレドにある児童公園は、トレド市長の協力のもと、トレドYMCAと私たちの国際ヒストリアン、デビー・レッドモントの発案によって、彼の名前が付けられました。これらのイベントは、いずれも2019年11月に行われたもので、トレドで行われた次期理事サミットに参加した際に、多くの人が、目撃しています。

このほかにも、まだ達成されていない課題がいくつかありますが、その中でも非常に重要なものが2つあります。ミネソタ大学の文書保管庫に保管されている歴史的記録のデジタル化と、スイスのジュネーブに、国際本部のためのオフィススペースを確保するという野心的な計画です。また、本号では、YMCAとの歴史的な関係についてもいくつか取り上げています。また、本号に掲載されたワイズメンズクラブ運動の法人化に関する記事のような歴史的な記述や、トレドで最初のクラブを設立した3人のメンバーの貴重な写真などの画像を通して、過去からの情報をお伝えするように努めています。

表紙：香港ワイズメンズクラブの熱心な若いメンバーたち。先日、団体献血を実施しました。

YMIワールド

ワイズメンズクラブ国際協会

国際本部: Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長: コシー・マシュエ

日本語版翻訳グループ: 田尻忠邦(委員長・大阪)、田中博之(東京多摩みなみ)、青木一芳(千葉)、朝倉正昭(東京世田谷)、今城高之(横浜つづき)、生川美樹(川越)、利根川恵子(川越)、花輪宗命(東京八王子)、比奈地康晴(東京)、倉田正昭(京都)、谷川寛(大阪センテナリアル)、谷本秀康(広島)、中井信一(奈良)、前田香代子(熊本ジェーンズ)

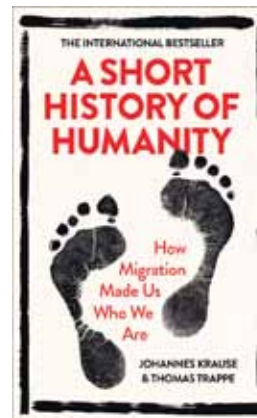
印刷: (株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

います。この年の最後の四半期の大きな世界のイベントは、2021年10月31日から11月13日までスコットランドのグラスゴーで開催された2021年国連気候変動会議、通称COP26でした。私たちの若いメンバーの一人であるジャマイカの国際ユース代表ドワイト・トムリンソンが、YMCAがスポンサーとなっている他の多くの若者たちとともに、そこに参加できたことを嬉しく思っています。皆さまにとって良い1年となりますように。恐ろしいコロナウイルスが、様々な形で何度も頭をもたげ、私たちを病気と死で脅かしていますが、私たちは意義、目的、喜び、勝利を見出し続けようではありませんか。

ワイズリー

コシー・マシュエ

私の本棚から



人類の短い歴史: 旧ヨーロッパの新しい歴史

ヨハネス・クラウゼ、トーマス・トラッペ 著、キャロライン・ウェイト(翻訳)

マックス・プランク進化人類学研究所所長のヨハネス・クラウスとジャーナリストのトーマス・トラッペが、私たちの過去、現在、未来を理解するための新しい方法を提示する、目を見張るような本を上梓しました。クラウスは、画期的なDNA配列決定技術によって考古学を強化した「考古遺伝学」という新しい科学のパイオニアであり、これによって10万年以上前の人類の新しい歴史を明らかにすることに成功しました。クラウスは、この技術を使って遠い過去の人骨を再調査し、死者の遺伝子プロフィールだけでなく、彼らの古代の旅路まで描き出すことに成功したのです。この簡潔な物語の中で、彼は、長い間忘れ去られていた彼らの移動と交差の物語を語っています。多くの人類がネアンデルタール人の遺伝子を受け継いでいることは、よく知られていますが、クラウスと彼の同僚が発見したように、私たちは、新たに発見された人類であるデニソワ人ともDNAを共有しているのです。遺伝学には、人種差別的なイデオロギーが持ち込まれた不幸な歴史がありますが、最先端の科学は、遺伝子のカテゴリーが決して国境を反映するものではないことを教えてください。本書は、移民と遺伝子の混血が常に私たちの種を定義してきたこと、そして私たちが何者であるかは遺伝ではなく、文化の問題であることを確認する、情報に基づいた人類の叙事詩の再話です。

(グッドリズのレビュー)

ワイズメンズクラブ国際協会 (YMI) – YMCA: 世界のミッションのパートナー

ジョース・ヴァルギース、国際書記長



ワイズメンとYMCAのパートナーシップは、100年の歴史があり、おそらく世界で最も一貫した最も長い2つの国際組織のパートナーシップであると言えます。1920年、米国オハイオ州トレドにあるYMCAに優れたサービスを提供していた会員が、ランチョンクラブとして最初のワイズメンズクラブを設立しました。それ以降、ワイズメンズクラブは、主にYMCAの使命と地域社会に奉仕するために世界各地に設立されました。両組織ともキリスト教の価値観と倫理観を中核とし、それがミッションに反映されています。国際憲法にあるように、「ワイズメンズクラブ国際協会は、イエス キリストの教えに基づき、相互理解と敬愛の思いに結ばれて、あらゆる信仰の人々が、共に働く世界的な友好団体であり、YMCAに対する忠誠心を共にしつつ、活発な奉仕活動を通じて、リーダーシップを開発、助長、供給して、全人類のためによりよい世界を築く

べく尽力するものです。」

YMCAは、世界で最も古く、最も大きな青少年団体のひとつであり、青少年を鼓舞し、結集して、自分にとって、また世界にとって重要な問題について自分たちの声を見つけ、共有することを目的としています。

1844年にロンドンでYMCAとして設立され、現在では120カ国で6,000万人以上の人々が参加するまでに成長しました。世界YMCA同盟は、1855年にパリ基準で述べられているような使命のもとに設立されました。

「われら世界のYMCAは、イエス・キリストを聖書に従ってわが神わが救い主として仰ぎ、信仰とその生活において彼の弟子でありたいと願う青年たちを一つとし、イエス・キリストの精神が広く青年の間に生かされるよう、その努力を結集する。」

今日、YMCAは、世界で最も古く、最も大きな青少年団体のひとつであり、青少年を鼓舞し、結集して、自分にとって、そして世界にとって重要な問題について自分たちの声を見つけ、共有することを目的としています。YMCAは、若者が自分自身を高め、地域を高め、世界を高めることができるよう支援します。世界中のワイズメンズクラブが、その使命のために重要な役割を果たし、このことが過去100年の間にいくつもの国のYMCAに影響を与えました。同じように、YMCAもYMIの運動を世界各地に広げ、多くの会員を提供する重要な役割を担ってきました。

グローバルに展開する比類なき機会

世界のYMCAとの歴史的なミッションのパートナーシップは、世界的な展開、統一されたアイデンティティ、認知度、サービスの継続性、そして協会の共通基盤という比類のない機会を与えてくれます。クラブメンバーにとって、YMCAへのボランティア奉仕は、YMCAの価値観から導き出され、この運動のユニークな親睦活動を通して実行されます。

9 ページに続く



印刷再開のお知らせ

半年前に休止した「YMI ワールド」の印刷が、状況の変化に伴い、再開されたことをお知らせします。現在、前2号(2020/21年第4号、2021/22年第1号)の郵送準備を進めています。ポータルバズのデータベースにお名前と住所が登録されている会員の方に郵送いたします。みなさまのご理解とご辛抱に感謝いたします。(編集長)

YMCA との繋がり

国際ヒストリアン事業主任 デビー・レッドモンド



100周年を迎えるにあたり、ワイズメンズクラブ国際協会とYMCAの繋がりを認識することの重要性を痛感します。アイデアと発展、そして初期のクラブ等、全てはYMCAから来たものです。ここで暫くの間、ワイズの設立を助けただけではなくワイズの考えを創設した4人の人

たちに思いを馳せてみましょう。

1915年、オハイオ州トレドYMCAの若いスタッフ、トーマス・クラレンス・エバンス（T.Cまたは単にCと呼ばれる）は、会員事業を担当していました。YMCAにメンバーを呼び込むことから「ブースター」と分類される人々のリストが与えられたT.C. エバンスは、先ず、その人たちを集めました。ほとんどのブースターは、定期的に会合し、役員を選出しましたが、実際にはYMCAでの会議を超えるものではありませんでした。エバンス氏は、YMCAにトレドで活躍するロータリークラブやライオンズクラブと同じように奉仕を提供するグループを作ることを思い立ちました。



グループに所属するビジネスマンの一人に法律家のポール・ウィリアム・アレキサンダーがいました。T.C. エバンスの熱心な勧めにより、「ブースター」たちは、より多くの目的（ランチオンクラブのアイデアに従い）を持って集まるようになりました。1920年10月には、ポール・ウィリアム・アレキサンダーが起草した憲法に従い17名のメンバーによる「TOLYMCA」と称するクラブが、立ち上がりました。その後1年間で75人以上のクラブメンバーを擁するまでになり、外国での事業（後にワールドサービスと呼ばれる）の基金設立や新しいYMCA キャンプの新しいキャンピンのための資金やボランティアの支援を行うほかYMCA 基金自体が資金を必要とするときにはクラブは、会員増強ドライブを実施して600米ドル以上を拠出しました。



トレドYMCAの総主事にパーシー・B・ウィリアムズという人がいました。彼は、TOLYMCAクラブが、成功するかどうかは定かではなかったにもかかわらず、クラブのすべての活動を喜んで支援してくれました。クラブが成長し、財政援助が実現するのを見て、このYMCAのスタッフは、すぐにクラブのファンになり、このグループのサポーターになりました。彼自身、年齢制限などによりメンバーとしては参加で

きませんでしたが、他の多くの人たちに参加してサポートするよう勧めてくれました。

パーシーのスーパーバイザーであるオハイオ州YMCAのアイヴァン・B・ローズが街を訪問した際、ウィリアムズは、彼をクラブ例会に出席するよう招待しました。クラブの活動にいたく感銘を受けたローズは、クラブに加入するとともに、クラブのコンセプトを1922年2月22日の州のYMCA 会議へ提示することを検討してくれるよう提案しました。クラブ会長のアレキサンダーは同意し、オハイオYMCAで講演するため、何人かのメンバー共々出向きました。もしこの3人の人たちがクラブの発展を支援していなければワイズメンズクラブは存在していなかったでしょう。

TOLYMCAが、オハイオYMCAの大会での重要な講演を準備する中で、どうしても最後に触れておかなければならない重要な名前があります。その名前の人は、第一次世界大戦中フランスのYMCAで働いており、YMCA機関誌に記事を寄稿していた、「組織の人」で、記事の中で自らを「東から来たワイズマン」と呼ぶウィル・M・クレシーです。その名前を気に入ってか、TOLYMCAクラブでは彼を招いて卓話をしてもらい、名誉会員として迎えました。このことから、クラブ会長のポール・ウィリアム・アレキサンダーは、他のYMCAにこのアイデアを紹介する際には、「ワイズメン」という名称を使用しました。そればかりか、3か月後にはTOLYMCAクラブは、自身の名称を「トレド・ワイズメンズクラブ」に変更しました。

確かに、年を重ねる中で、私たちとYMCAの結末は必ずしも全ての地域で強固であった訳ではありませんが、今日までワイズメンズクラブが存続したのは、私たちの歴史がYMCAと共に強固であったからです「YMCA、サポートに感謝します!」



PERCY B. WILLIAMS.

T.C. "Si" Evans

Thomas Clarence "Si" Evans, 96, died Thursday, Jan. 21, 1988 in Glenwood Springs, Colo., at the home of his son, following a heart attack.

He was born in Venedocia, Ohio, on March 28, 1891, the son of David J. and Sarah Jane Edwards Evans. He married Lulu Culbertson of Provo in 1916. She died in 1964. He married Mildred Livingston Culbertson in 1967. T.C. "Si" Evans She died in 1980.



He graduated from Park College, in Missouri, in 1915 and pursued a career in YMCA work, beginning in Toledo, Ohio. During World War I he served in the U.S. Navy.

He and his family moved west to the YMCA in Billings, Mont. for six years. He returned to Toledo as educational secretary in 1929. In 1937 he came west to Pocatello, Idaho, to become executive secretary of that YMCA. There, he expanded all phases of YMCA work. When he retired in 1956, he and his wife traveled in a trailer around the west, until she died. He then settled in Apache Junction, Ariz.

He moved to Glenwood Springs, Colo., in 1965, to be near his son.

He founded the Y's Men's Club (in 1920), which has since become an international organization of young adults supporting YMCA work.

He was an active member of the Presbyterian Church, the Rotary Club, and the American Legion.

He enjoyed traveling and camping and fishing with his family. After retirement, he often made jewelry for his grandchildren from the rocks he found. He enjoyed Welsh music and often attended the traditional Gymnafu Ganu in Venedocia.

Survivors include two sons and one daughter: Mrs. Leonard (Mary Lou) Morgenstern, Moraga, Calif.; Thomas Evans, Glenwood Springs, Colo.; and David L. Evans, Provo; one stepson: Ray Culbertson, Eudora, Kan.; eight grandchildren; one sister: Alma Williams, Venedocia, Ohio.

Funeral will be Wednesday, 1:30 p.m., Berg Mortuary Chapel, 185 E. Center, Provo. Friends may call one hour prior to service.

Burial in Provo City Cemetery.

効果的なリーダーシップの3つの要素

ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィック

元世界 YMCA 同盟総主事ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィックは、ノルウェー、テンスベルグワイズメンズクラブのメンバーで、ヨーロッパ YMCA 同盟へのリエゾンでもあります。これは、2021 年 7 月に彼が国際議会で行った長い講演の一部です。

このエッセイでは、価値観に基づき、精神に根ざした効果的なリーダーシップの3つの要素について考察します。

第一の要素は、「寛容な心で導く」です。もし私が、リーダーとして、自分が一番強く賢くて人気があることを示そうと自分のチームと競争し始めれば、それは一人でテーブルを持ち上げようとするようなものです。その結果は、必ず、テーブルの上のものが滑り落ち、床に倒れ、衝突し、破壊されることさえあるような悲惨なことになるでしょう。もし、あなたがチームでそのテーブルを持ち上げれば、結果は、大成功に終わるでしょう。

寛大さをもって指導するということは、チームメンバー全員の潜在能力を引き出すことです。それを実現するために、それぞれが持つ素晴らしい才能を敬いつつ、それを開花させ、共通の利益のために用いるのです。それは、またリーダーは、すべての賞賛や成功体験をチームで共有しなければならないということでもあります。これは、すべてをより速く、より良く、より効率的に動かす機械の油のようなものです。寛大さは、魅力的であり、人を惹きつけます。そしてここで最も重要なことは、チームから愛されるためにこの全てを行うのではなく、単にあなたがチームを愛しているから行うということです。この2つの動機の間には大きな違いがあります。

寛大さは、正直で本物でなければならない

寛大さは、ジェスチャーや誤魔化しではなく、正直で本物でなければなりません。世界 YMCA 同盟では、主要なスタッフメンバーは、全員、オーストラリア、インド、ケニア、ポーランドやアメリカなどから在宅で分散型管理を実践していました。ジュネーブに居たのはノルウェー人1名とブラジル人1名と、ここ数年はポーランド人1名でした。どのようにしてこれは、効果的であると同時に寛大でもあったのでしょうか。

私たちは、定期的に集まってスタッフミーティングを行いました。それは、一度に3週間を要しました。毎日、朝の祈りで始まり長い会話を持ちました。意見の違いを強調したり、言い争ったりする代わりに、互いの意見を注意深く、そして寛大な心で聞き、そこから学ぼうとしました。このような会話は、必ずと言っていいほど仕事上の話にもつながっていました。そして聖書の言葉が出発点なので、価値観に基づいた討論となり、結果、価値観に基づいたリーダーシップを発揮することができました。祈りに続く会話を通して、私たちは、メッセージ、内容、戦略、ワークプランを自分のものにしていきました。質問をしたり、誤解を解いたりすることで、少しずつですが同じ言葉を使いながら、同じ方法で、物事を理解できるようになりました。確かに時間は、かかりましたが、とても効率的に時間を使えるようになりました。なぜなら、いつもジュネーブを去るとき、私たちは、同

じメッセージ、同じ理解で同じものを手にして帰ったからです。そして、そのメッセージは、私たちの運動を統一した形で世界中に広められることになりました。

地下室への歩み

このことは、私の哲学の要素である「本物には弱さが必要」という次の本質につながります。それは、つながりを生み出すのに役立ち、そしてつながりなくしてチームは成り立たないのです。多くの場合、そのような朝の祈りで、私たちの弱点や苦勞している箇所が明らかになりました。それは、とても個人的な場合もありましたが、チームで守られていたので表に出てくることもありましたが、このミーティングでの発言は、その場にとどまり、他のどこにも残りませんでした。

私は、チームのリーダーとして、問題点や弱点、欠点などの共有に全面的に参加しました。

私たちは、それを「地下室への歩み」と呼びました。トンネルの先にある光—つまり問題解決のための光—を見る前に、決して地下室への歩みをとめてはいけないことを明確にすることが私の責任でした。

弱音を吐くことで、良い可能性が開けるのは健康的な解決策でした。自分の欠点や他人からの批判、叱咤激励を受けながら、自分が強く、独断的なだけではなく、弱く、自信がなく、悲しい時もあることを示すことは、特に私の場合、より真摯なことだったのです。それは、恐怖に基づく権威ではなく、尊敬と愛に基づく権威を与える意味から効果的なリーダーシップの重要な部分なのです。

私にとってのこの学びのエッセンスは、決して、決して自分の最も親しい同盟者やパートナーと競争したり、自分のチームと競争することではありませんでした。時には、自分よりもそれぞれを成長させ、繁栄させ、開花させ、強くさせました。リーダーとは勇気を持って、自分より優れた人たちに囲まれることであり、それが最強のリーダーであり、最も効果的なのです。

信頼できる環境をつくる

効果的なリーダーシップの3つ目の必須要素は、チームを作る上で最も大切な言葉「あなたはここに居るべき」です。信頼できる環境を作り、あなたは、ここに居るべき、と言いましょ。本物であること、そして信頼を示しましょう。ここで、あなたに2つのアドバイスをしたいと思います。この2つは、国際的なレベルでリーダーシップの課題に特化したものです。

YMI(ワイズメンズクラブ国際協会)の法人格取得と法的地位

元国際会長 ベンソン・ワブレ、ケニア

YMIの法人格取得についてのこの記事は、ワイズメンズクラブ国際協会がどのようにして法人格を取得したかを示しています。この記事は、ベンソン・ワブレ元国際会長が、IHQ スタッフの協力で IHQ の記録集から得られた情報と、1972 年刊の書籍「ワイズメンの歴史」からの情報をまとめたものです。—編集長

ワイズメンズクラブ国際協会は、次の経過で自らに別名称を付け加えてきました。1974 年以後、「ワイズメン・インターナショナル」(YMI)と称し、現在に至っています。その間 1991 年から 2008 年までは「ワイズダム・インターナショナル」とも称しましたが、これは 2009 年以後「Y サービスクラブ・インターナショナル」と改称されました。もともと本国際協会は、1922 年 11 月アトランティックシティでの 3 年に一度の国際 YMCA 大会時に併催された、全ワイズメンの会合で組成されたものです。

本協会は、1926 年カムデンでの国際大会時に初めて法人格の取得が決定されました。その時まで、ワイズメンズクラブのエムブレム(標章)は、名称と共に、カナダ・米国双方の特許局で意匠登録を済ませていました。そして、本協会は、マサチューセッツ州の州法によって、1926 年 12 月 20 日に法人格付与が決まり、1927 年 1 月 26 日に法人認証を受けました。

国際事務所がイリノイ州の、最初はダウナーズグローヴへ、次いで 1968 年にオークブルックへ移転した際、本協会は、イリノイ州で再法人化されました。のちに 1974 年の国際議会で、当時の議事録にマサチューセッツからイリノイへの移転の承認の記録がないということで、本移転の合法性が問題になったと報じられました。調査の結果、この移転は、完全に合法的だったことが判明し、それを記録するとの決議がなされました(国際議会 1974、動議 11)。

ワイズメンズクラブ国際協会は、1970 年 1 月 4 日にス

イスのジュネーブに事務所の支所を開設し、1973 年 9 月 1 日には、国際本部(IHQ)がそこへ移転しました。しかし、IHQ が世界 YMCA 同盟に間借りしている間は、本協会は、イリノイ州



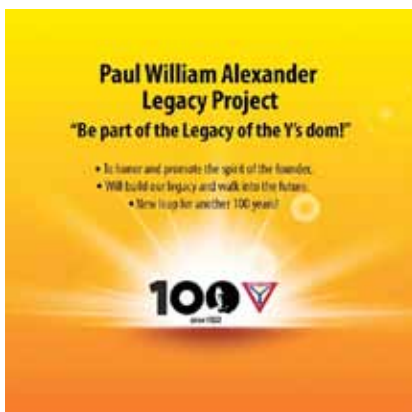
米国マサチューセッツ州ローレンスのクインシー通りにあるこの家は、1925 年から 1962 年まで YMI の国際書記長兼会計を務めたヘンリー・D グライムスの所有で、彼の在任中の全期間、ワイズメンズクラブ国際協会の公式本部でした。

の法人であり続けました。私たちワイズの国際協会と世界 YMCA 同盟との関係は「相互理解の覚書」の中に(初回は 1969 年 11 月に)設定され、1975 年から 1988 年までは毎年更新、以後 1989 年と 1992 年には 3 年間有効という形で更新されました。IHQ が世界 YMCA 同盟から同地のジュネーブ YMCA の中に移転したとき、この「相互理解の覚書」は、時代遅れのものになりました。

ワイズメンズクラブ国際協会は、1995 年にスイスにおける法的地位を取得しました。そのことは、ワイズの国際憲法に「(協会が)法人組織を有し、それ故スイス民法典第 60 条…に基づいて法人格を取得する」(国際憲法第 1 条第 3 項)と宣言されています。国際議会は、これらの国際憲法改正を、1995 年 3 月に郵便投票(2-94/95)で可決し、続いて、世界の全クラブによる郵便投票で、同 1995 年 5 月に、この改正を可決しました(国際議会 1995 議事録)。

ワイズメンズクラブ国際協会は、スイス連邦税と州税の納付を免除されていますが、そのためには 3 年ごとに州税免除の権利を更新申請しなければなりません。

1995 年の国際議会は、国際執行役員会に、米国イリノイ州におけるワイズメンズクラブ国際協会の法的地位を解消する権限を委託しました(ICM1995、動議 31)。



COP26—この騒動は何なのか

IYR ドワイト・トムリンソン

ドワイトは、国際ユース代表 (IYR) で、ジャマイカ出身です。2021 年 10 月 31 日から 11 月 12 日までグラスゴーで開催された COP26 では、YMCA ユースチームの一員として参加しました。地域社会で気候変動や環境保全に取り組むために 76 カ国の若者を指導しました。これは、COP26 の期間中、彼が世界 YMCA 同盟のウェブサイトへ寄稿した記事です。

COP26、救命救急室に来てください！

COP26:「私はここ、ここにいます。やらなければならないことは、何ですか。」

世界の指導者・国連:「患者の名前は、地球です。酸素欠乏、食糧不足、熱波による山火事、火山噴火、海面上昇などの症状を繰り返しながら、二酸化炭素中毒を発症しています。最も心配な症状は、SARS ウイルスで、このウイルスは、他の生命を脅かすような変異体に複製されます。地球のバイタルは、危険な状態で、抗体（人間）は、逆機能を果たしているようです。」

地球:「先生、私はどうしたのでしょうか。」

COP26:「つまり、見た限り、あなたには、気候変動の症状が出ているのです。温室効果ガスが過剰になり、健康状態が急速に悪化しているのです。自己免疫疾患により免疫系が攻撃され、このようなガスの蓄積を引き起こしているようです。」

世界の指導者 / 国連:「先生、どのように進めますか。」



COP26:「よし、まずは一連の対象を絞った治療から始めましょう。森林伐採の抑制、合意した 2030 年の排出量まで炭素レベルを引き下げながら安全で共有するコミュニティのための育成環境を創造し、自然空間と生態系を保全しましょう。」

私たちの気候は、絶えず変化していて、排出量を削減するための努力を蓄積しているときでさえ、この変化は、一貫して予測される悪影響と出会うこととなります。なぜ気候変動に取り組むために、特定のターゲットに絞った会議を開催するのでしょうか。それは、世界を変えるという私たちの望みなのでしょうか。この騒動は、一体何ごとなのでしょうか。

COP26 では、今後何年にもわたって持続可能な環境という気候変動の目標を達成するために、何千人ものインフルエンサーやチェンジェージェントが一堂に会します。しかし、世界をより良く変えるという考えは、すべての人にとって圧倒されることであり、さまざまな意見に火をつけるものであるように見えます。しかし、私たちは、その考え方を間違えてはいないのでしょうか……

COP26 では、森林破壊の抑制、二酸化炭素排出量の削減、安全で豊かなコミュニティの提供、自然空間と生態系の保全など、本当に重要なことに絞り込み、より実践的な取り組みを行っています。どのようにそれを実現するのでしょうか。それは、世界が 1 つの場所に集まり、イノベーションによってこれらの課題に対応し、すべての人が提唱する実用的な解決策に基づく議論への投資を奨励することです。

それが、この会議の目的です。COP26 は、酸素の生産、食料や医薬品の供給、水のろ過、汚染の除去、再生可能な資源の利用、そして多くの人が信じていることとは逆に、私たち全員が共有している共生関係を強調することによるお互いへの共感など、幅広い利益をもたらす多くの解決策を提供するものです。

そして、一貫性があり、比較可能で、信頼できる情報を提供し、世界のリーダーが社会の最大のニーズに応える長期的な価値を生み出すための意思決定を行う能力を強化することが、私たちの目標達成のための道なのです。

COP26とは何

COPとは、Conference of the Parties (締約国会議) の略称です。締約国とは、1992年に開催された国連気候変動枠組条約締約国会議で合意した 197カ国を指す外交用語です。この年、米国をはじめとする数カ国は、「気候系に対する人間の危険な干渉」に対処し、大気中の温室効果ガス排出量を安定化させるための条約を批准しました。この条約に基づいて各国が集まるのは今回で 26回目、つまり「COP26」です。

これまでの 25年間はどうかだったのでしょうか。

1995年にベルリンで開催された第 1回 COPは、気候変動条約を批准した国が最小必要数に達した後でした。2年後、裕福な先進国に排出量の抑制を求める京都議定書が締結される布石となりました。しかし、この協定には問題がありました。ブッシュ前大統領率いる米国は、中国やインドなど主要新興国に温室効果ガスの削減を義務づけていないことを理由に、この協定を拒否しました。

早いもので、2015年になりました。20年以上にわたって、どの国が気候変動への取り組みに最も責任を負うかをめぐって争われてきた結果、約 200カ国の首脳がパリ協定に署名しました。この合意は、画期的なものとされました。富める国も貧しい国も、異なるペースではありますが、気候変動に取り組むことに初めて合意したのです。米国は、ドナルド・トランプ前大統領の下でパリ協定から離脱しましたが、ジョー・バイデン大統領の下で再加入しました。パリで各国首脳は、大きな約束をしましたが、気候変動がもたらす最悪の事態を回避するためにまだ何もしていません。その結果、COP26が、グラスゴーで開催されることになり、各国首脳に野心的であるようにさらなるプレッシャーがかかります。

<https://www.economist.com/international/2021/11/11/what-happened-at-cop26>

メンバーシップについて



会員増強、いいえ、ワイズ運動成長への想い

ウェイン・キャメロン(オーストラリア区理事)

最近、私は、国際書記長のジョース・ヴァルギースのオンラインミーティングに参加し、運動の成長戦略について話を聞きました。私は、この話を聞いて大きな感動を覚え、この戦略をクラブ会員である皆さんにお伝えしたいと思いました。多くの方は、新しいクラブを作る「エクステンション」というコンセプトをご存知でしょう。

しかし、ジョース国際書記長は、私たちがよく知っている、クラブがスポンサーとなって新しいクラブを育成するという従来の方法とは異なるアプローチについて話してくれました。チャレンジ 22 のコンセプトである新クラブの拡大から、既存クラブの会員増強の拡大に重点を置いたアプローチに変更することが話されました。

個人をより強調する

地域社会への貢献よりも、個人の経験を重視すること。ワイズメンズクラブのメンバーを悩ませてきた質問に対して、入会希望者に向けての回答を提示しました。

個人をより強調する

「私に何の得があるのでしょうか?」という質問の答え

- ・ 仲間に囲まれる。
- ・ 寂しくない。
- ・ 世界中に友達がいる。
- ・ ほとんどの場合、身近には無い、異なる能力をもつ人々のネットワークを体験できる。

クラブに入会して、これらのメリットを享受してください。

あるいは、なぜ誰かを助けるのでしょうか?

- ・ 自己の充足感
- ・ 自己の幸福
- ・ 困窮者を助けることで経験する満足感

なぜワイズメンズクラブは、他の組織と違うのですか?

- ・ イエス・キリストの教えに基づいたミッション主導の組織
- ・ 歴史的なパートナーである YMCA との関係
- ・ 普通の人々がすべての分野、役職に参加できる。
- ・ 小規模であるため、世界規模でリーダーシップを発揮する機会がある。
- ・ 小規模であるため、個人が世界中の人々と知り合うことができる。
- ・ ブラザーフッド基金の旅行補助金
- ・ 孤独をターゲットにして、幸福を促進する。

ワイズ運動の成長

また、ジョース国際書記長は、クラブとクラブ会員を増やすためのいくつかの戦略について話しました。最初のアクションは、エクステンションのための区のチームを結成することです。このチームには、少なくとも 1 名の YMCA の会員が含まれる必要があります。

現会員に友人を連れてくるよう呼びかけます。現会員一人ひとりが友人を連れてこない限り、減少を食い止めることはできません。私たち一人ひとりが何かをすることがチャレンジです。簡単なことです、あなたが誰かを連れてくるだけで、その人は、クラブ内で、サポートしてくれる／新しい友達の輪を広げるという喜びを味わうことができます。

奉仕クラブに入って欲しいというのではなく、新しい仲間の輪に入って欲しいということです。つまり、いろいろな仲間を持つことで得られる素晴らしいサポート感を味わってもらいたいということです。

あなたのクラブは、現在行っている良いことを継続することができます。新メンバーがワイズメンズクラブの一員であることで得られた経験を活かして成長することを支援しましょう。

出典:オーストラリア区理事通信第 4 号(2021 年 4 月 /5 月号)

効果的なリーダーシップの 3 つの要素 (5 ページ続き)

最初は、未知の文化を理解する自分の能力を過大評価しないことです。私たちは皆、最初は異文化の人を理解するのは簡単なことだと考えますが、決してそうではありません。ワイズメンズクラブ国際協会のリーダーとして、十分な時間をかけて、また、自分のチームのメンバーや、若くて影響力の弱いメンバーからの意見にも耳を傾け、学ぶ時間を持ってください。そうすることで、このことは、多様な文化背景の貴重な要素を学ぶことができるばかりでなく、また、そのようなメンバーにも、あなたと共に居るのだと感じさせることができるのです。

二番目は、チームの不安や恐怖を過小評価しないということです。あなたが国際的な組織でのプロセスをリードしたいと思っても、チームメンバーがそのプロセスを自分のものにする

のは大変なことだと気づくでしょう。彼らが、あなた自身のプロセスを理解するには長い時間がかかります。もし彼らがあなたと共に居ると感じられれば、それを自分のプロセスにすることで、すぐに自分のものとして理解するのです。なぜなら、それは自分のプロセスだからです。100%受け入れて欲しいというチームのニーズを過小評価しないようにしてください。

これは、結論から言うと、私が「友情を通じてのリーダーシップ」と呼んでいるものです。

友人は、自分が最高の人間であるために、どんな困難にも屈しません。これは、効果的なリーダーシップというだけでなく、人生を豊かにする経験です。

ユースは浪費されているか

サンドラ・ハミルトン YIA国際事業主任



「若さは浪費されている」という言葉をよく耳にしますが、昔から、少なくとも1931年のジョージ・バーナード・ショアの時代から、「知恵は50代で身につけるものだ」と多くの人が感じていたようです。

多くのワイズメンズクラブが、知らず知らずのうちに、若いときは時間を浪費するものというイメージを受け入れているようです。なぜ、私がそう思うのか、とお聞きになるかもしれません。ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)のあなたのクラブの平均年齢は、何歳くらいでしょうか？

私たちワイズメンは、高齢と知恵の恩恵を受けて、自分たちの欠点についてユースと正直に話し合うことができるでしょうか。私たち自身が犯した失敗を彼らがせずに済むように計らい、このYMIという世界で足元を固めるようにすることができるとは思いませんか。

なぜなら、現代は、バーチャルの世界、ソーシャルメディア、ミーム、そしてクリックやタッチを間違えただけで世界中とは言わないまでも会社中に恥をさらす可能性がある時代であり、様々な意味で彼らは、私たちと知恵を共有する必要があるからなのです。

ワイズメンズクラブ国際協会ではユースと話していると、全体的に、彼らが私たちに、敬意をもって接してほしい、彼ら

の意見に耳を傾けてほしい、ネットワークの作り方を教えてほしい、そして実際、彼らとネットワークを作ってほしいと言っているのが聞こえます。

私たちの運動に参加しているユースの多くは、自分が大切にされていると感じていません。このままでは、ユースを失うことになってしまいます。そこで、肩書きや決まり文句だけでなく、ユースに力を与える意識的な努力を始めていただけないでしょうか。

肩書きはあっても、その思いが十分に伝わらないうちに、声が途切れてしまっていると感じている人が多いのです。しかし、私たちは、立ち止まり、耳を傾け、目を閉じて、知恵の芽や種の言うことを聞き、それをすべての世代に役立つ美しい成熟した実にする手助けができるでしょうか。ユースの声に耳を傾け、騒々しさを聞く代わりに、反対意見を考える代わりに、年長の賢者として、私たち全員が切実に求めている平和を、これらの声に吹き込み始めることができるでしょうか。不協和音の声を、私たちの声と合わせて、変化の風と共に美しい音楽を奏でることができるでしょうか？

(出典:IP ニュース、2021年10月号)

YMI - YMCA: 世界のミッションのパートナー (3ページからの続き)

会員は、地域社会における共通の利益のために自分の時間、才能、資源を提供し、他の人々の生活に変化をもたらしています。国際的な協会であるため、私たちのサービスの影響は、地域のYMCAと世界のYMCAの両方に及びます。過去100年以上にわたり、私たちのサービスは、YMCAとのパートナーシップにより、世界中の何千もの個人とコミュニティの生活を向上させてきました。第二次世界大戦中や大戦後は、YMIが、YMCAの戦後サービスや難民支援プログラムを支援し、世界YMCA同盟は、J・R・モットを通じて1946年にノーベル平和賞を受賞しました。地域社会のプロジェクトを支援するだけでなく、組織のミッションに示された私たちの共通の忠誠心は、持続可能な支援とリーダーシップ開発を通じて、世界中の何百ものYMCAを強化することで実現されました。スペインYMCA、コンボYMCA、モルドバYMCA、ヨーロッパYMCA研修センター、インド、日本、アメリカ、カナダ、ロシア、ケニアのYMCAなどが、組織発展のための私たちのパートナーシップの例として挙げられます。アレキサンダー奨学基金は1954年に設立され、YMCAのリーダーシップ開発と潜在的な可能性を支援するためのものです。この基金は、YMCAの主要なスタッフ、リーダーやユースボランティアが、YMCAを強化するための新しいスキルやビジョンを身につけることを支援してきました。この基金は、その他いくつかの各国YMCA同盟やその加盟YMCAの研修ニーズの他に、YMCAチェンジエージェント、各国同盟総主事研修、世界

YMCA同盟の連帯基金を継続して支援しています。

新しい人生経験の約束

ワイズメンズクラブ国際協会の使命は、全人類のためにより良い世界を築くことです。TOF(Time of Fast)は、自己犠牲的な寄付を通じて、人間の叫びに応えようとするワイズメンの精神として生まれました。YMCAが主導する数百のプロジェクトが、世界中で支援され、コミュニティレベルでの社会変革や持続可能な成長を実現しています。1972年の創設以来、約1,000万米ドルの寄付が集まり、プロジェクトに投資されており、世界中のワイズメンの代表的な活動となっています。急速なグローバル化は、気候変動の原因となる温室効果ガスの排出を増加させる道を開きました。YMIは、アドボカシー活動やカーボンオフセット基金の設立を通じてこの問題に対応し、世界中のいくつかのYMCAやコミュニティプロジェクトが二酸化炭素排出量を削減し、カーボンニュートラルな組織となるための道を開いてきました。YMIは、過去100年の学びと未来の可能性を信じて、次の100年に向かって歩み始めています。ワイズメンの再燃した精神は、すべての人のためにより良い世界を築くために、地球市民として集団で行動するようクラブメンバーを鼓舞することでしょう。YMCAとの継続的なミッション・パートナーシップは、より良い明日のために、世界中の若者たちに広く影響を与えるのに役立ちます。YMIとYMCAは、単なるパートナーではありません。それは、新しい人生経験の約束であり、より良い世界への希望なのです。

地域からのニュース

アラブ首長国連邦のワイズメンズクラブが平和祈念灯火の点灯式を開催

2021年8月9日、アラブ首長国連邦のワイズメンズクラブは、1945年に広島と長崎に落とされた原爆の犠牲者を追悼する国際追悼デーを開催しました。このイベントの目的は、核兵器の危険性に対する認識を広め、国際的な軍縮を促進することでした。

式典は、広島市長の平和宣言の朗読に始まり、hibakusha(被爆者)の証言(被爆者とは、広島・長崎の原爆で被爆した人のこと)が映し出されました。この映像は、YMCAが、2016年の旅に協力したピース・ボートより提供されたものです。アラブ首長国連邦のワイズメンたちは、ピース・ボートが掲げる「核兵器のない世界」という目標を支持しています。

2016年の航海に参加したジョース・ヴァルギース国際書記長(当時YMCA所属)は、ゲストスピーカーの一人で、広島と長崎の人々が、「災難によって特徴づけられるのではなく、和解と希望によって特徴づけられることを選んだ」ことを称賛しました。また、これらの都市で自ら体験したことやピース・ボートの乗客として得た素晴らしい機会について話しました。ジョース国際書記長は、第一次、第二次世界大戦でYMCAが果たした役割について紹介しました。YMCAは、常に難民を助け、平和を推進してきました。核兵器廃絶も、この組織が掲げる目的の一つです。ジョースは、「リスクを排除する唯一の方法は、核兵器を完全に廃絶することである」と考え、若者のパワーが活動に影響すると信じています。

和田征子が、1歳10ヶ月の時に、想像を絶するような事態に陥ったという証言ビデオが上映されました。彼女は、母親から聞いた話を元に、二人の体験談を紹介しました。そして、大火傷を負った人々が山を越えて逃げ出そうとした母親の記憶を語っています。

彼女の母は、放射能の影響で、生涯に渡って数々の体調不良に悩まされました。日米両政府が重要な情報を検閲



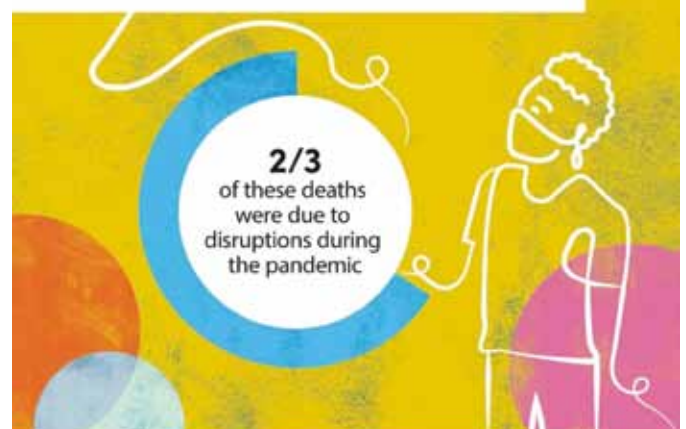
したため、多くの被爆者は、自分がなぜ病気になったのか全く知りませんでした。悲しいことに、放射線による悪影響は、健康問題だけでなく、彼女や多くの被爆者たちが、社会から差別され、排斥され、求職や家庭を築くことも困難でした。

彼女は、長い間、母の体験は、自分とは無関係だと思っていました。当時、まだ赤ん坊だったので、母のように表現することが出来ませんでした。母をはじめ、多くの被爆者が亡くなり、自分が今出来ることとして、その運動に携わっています。今、母の経験を自分のものとして、二度と核兵器が使用されないようにと、ジョース・ヴァルギースらと共に活動をしています。

— イライジャ・クック

RBM 基金にご寄付いただいたことがありますか？

In 2020, there were 14 million more malaria cases and 69 000 more deaths than in 2019



2020年には、2019年に比べてマラリア患者が、1,400万人増え、死亡者数が69,000人増えました。このうち3分の2は、パンデミック時の混乱によるものです。



広島平和記念碑(原爆ドーム)は、1945年8月6日に最初の原子爆弾が炸裂した地域に残された唯一の建造物です。広島市をはじめとする多くの人々の努力により、被爆直後と同じ状態で保存されています。

2つのTOFプロジェクトに関するロシア区からの簡単な報告

ロシア区は、幸運にも昨年度に2つのTOFプロジェクトの認定を受けました。一つは、ウクライナのサポロジェ(ウクライナ)のワイズメンズクラブとYMCAによるプロジェクトであり、他の一つは、ロシアのワイズメンズクラブとダーチャYMCAの共同によるプロジェクトでした。

最初のウクライナのサポロジェのTOFプロジェクトは、ホームレスの児童を招き入れ、支援するために開発されました。TOF基金は、野外活動施設とリハビリセンターに体育館を設けるため申請されました。利用者の子供たちは、殆どが貧しい生活環境と生活スタイルに由来する免疫不全やその他の病気に苦しんでいます。TOF基金は、孤児のためのリハビリテーションセンターに隣接して、素晴らしい野外運動場を開発するために使われました。

今日、運動場は、自由時間を過ごすために健康状態の改善と運動能力の向上を目指す異なる年齢の子供たちで埋め尽

くされています。元クラブ会長のナデシュダ・クドリャシヨバの皆を鼓舞する献身的なリーダーシップと孤児たちのためのグラウンドを創りたいという彼女の熱い思いに感謝します

2番目のTOFプロジェクトは、ロシアの心臓部ヤロスラブリ区のネクラソフスコエという集落に対してでした。ここにはロシアYMCA同盟本部があります。プロジェクトは「誰一人取り残さない」と名付けられ、目的は、高齢者の新しい技術の取得を支援することと、これらの方々に新しい自己啓発とコミュニケーションのやり方を提供することにあります。同様にプロジェクトは、YMCAの別荘のガス化の技術的側面を担っています。

イリーナ・マメーバ ロシア区TOF事業主任



野外活動を楽しむ子供たち



「誰一人取り残さない」改装された別荘の敷地の前で

日本:環境にやさしいスポーツと併せての海岸の清掃活動

2021年11月7日(日曜日)西日本区の京都部が、京都府舞鶴市の神崎海岸で海岸美化作戦を実施しました。「スポGOMI」と呼ばれる海岸美化活動は、環境にやさしい運動種目で、チームが、それぞれ指定された場所の定められた時間内にゴミの量と質によって与えられるポイントで競うものです。京都部傘下の200人を超えるクラブメンバーと家族たちが、46

のチームに分けられ、401kgのプラスチックごみや海岸に漂着したゴミを集めました。参加者の地域奉仕と、環境浄化への自覚が高められました。このイベントは、社会的スポーツのために設立された社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ日本スポGOMI連盟が後援しました。

京都部部長:中村隆司



海岸浄化活動への参加者



神崎海岸でゴミを収集する参加者



集められたゴミの山

地域からのニュース

Y's コネクトービジネスネットワークプラットフォーム



「Y'sコネクト」、それは、私たちクラブ会員に対してより良いビジネスチャンスとそのための資力を理解させるためのフォーラムとして、次期国際会長K・C・サミュエルによって、11月10日にバンガロールにおいて開始されました。それは、さらに、クラブ会員の友人として、ビジネス関係を通じて私たちのクラブに参加したいと希望している人々を奨励することにもなっています。なぜなら、私たちのクラブ会員は、様々な背景—人事の専門家や弁護士、ビジネス従事者、教育家、農家、医者などから構成されていますから、このようにお互いを知る事は、すべての人々にとって利益になるでしょう。

ロックダウンの最中に、多くのワイズメネットたちが、在宅ビジネス—縫製、パン焼き、ケータリングサービス、ファッションデザイン等を始め、そしてこれらが、彼女たちの創造力と事業力を披露する機会を提供することにもなりました。

「Y'sコネクト」は、技術と人的関係のネットワークを増強し、お互いに一層理解し合えるようにします。その意味で、

「What's App」(訳注:欧米でLINE同様に使われているSNS)は、非常に便利な媒体です。間もなく、その他のメディアも開発されるでしょう。最も重要な事は、コロナ禍が終われば、お互いの人的交流が(再び)行われることです。

「Y'sコネクト」の開始が、ソーラーシステム、精密工学、害虫駆除、絵画を売る画家たち、それにウサギの肉もその中に入っていますが、ビジネス機会の提供を広げているのを嬉しく思います。その内の幾つかは、お互いにビジネスを始めるまでになり、「コネクト」(Connects)を、会員外にまでも広げ、今では20人近いワイズメン以外の人たちがこのビジネスグループに入っています。

ダニエル・トーマス、バンガロールクラブ、
Y'sコネクト・コーディネーター



インド:児童養護施設への「天使の翼」

タイタン・バンガロールワイズメンクラブは、ジーバンディープ児童養護施設に屋外遊び場の遊具を提供しました。施設には、1歳から16歳までの、孤児、片親だけの児童、養育遺棄された児童達が、収容されています。このプロジェクト

は、「天使の翼」と適切に命名されましたが、それは、施設に、平凡でありながら不当な社会制度から脱出したいという希望と願望をも共有する、静寂さと純粋さを表明しています。
ジヌ・ジョージ、バンガロールII部書記



バンガロールII部の指導者たちによるジーバンディープ児童養護施設への支援の贈呈式。右の写真は、整備された施設の遊び場

デンマー区クリスマスカレンダー発行



数か月後に



茶のプランテーションの清掃 —台湾のワイズメネットの学習体験—

北部部長のマ・ジュン・ファ、北部ワイズメネット部事業主任のチェン・メイ・リンおよび台北バータクラブ会長のウー・ユウ・シャンは、「北部のワイズメネットによる茶のプランテーションの清掃」事業に、連携して取り組みました。それは、私たちの茶の文化に対する理解を深める機会を提供することを目的としたばかりでなく、地域の環境を保護・保全するため、ワイズメネットとクラブのメンバーを、プランテーションの周りの山道などの地域をきれいにする活動に招き入れることを目指したものでした。

この活動は、茶のプランテーションが辿ってきた途について学び、読み解くという多くの楽しみを提供し、参加した人たち

は、この土地が、長い間豊かな茶の文化を育んできたことを理解することができました。この活動を通じて、参加者は、大自然を実際に身近に感じ、理解することができました。

この活動資金の一部は、「ワイズメネットリリー・チェン ラブ・アンド・ケア特別基金」からの寄付でまかなわれました。この特別基金は、次期エリア会長に選ばれたチャーミング・シェンが、ワイズ運動に多大な貢献を果たした亡き妻を偲んで2年前に創設したものです。この基金は、医学と健康の問題、芸術と文化、優れた才能の支援などに関する様々な講座を開講するなど、ワイズメネットに多様な学びの機会を提供しています。

マーク・リン： アジア太平洋地域、台湾区書記



道路に出る前の受付および茶のプランテーション内の通路で



フィリピン:より良い、より安全な学習環境の実現



9月と10月の活動後の学校の正面階段でのクラブ会員



フィリピンのメトロケソンシティ・ワイズメンアンドウィメンズクラブは、タラスケソンシティ・ワイズメンアンドウィメンズクラブと連携して、最近、リサールのテレサにあるアブヨッド国立高校で2つのプロジェクトを実施しました。9月に彼らは、毎年恒例の「ブリガダ・エスクエラ (Brigada Eskwela)」プロジェクトの一環として、150人の生徒に学用品一式を寄付しました。これらのキットは、生徒とその保護者が、今年もオンラインの在宅学

習を続けるのに役に立つことでしょう。他の活動は、教師、学校管理者および子供の保護者を守るために10月に実施した「消毒用品寄付運動」でした。敷物の消毒、何ガロンもの消毒液の寄贈の他に、教室、事務室、トイレを消毒するために設置された殺菌灯は、命にかかわるコロナウイルスから1年を通じて学校を守ることでしょ

香港:献血促進運動



献血会場に集まった献血者、支援者



香港ワイズメンズクラブの若い会員が、グループでの献血促進活動を主催し、多くの熱心なワイズ会員が参加しました。また、クラブの事業主任が主催した、このキャンペーンの事前促進の昼食会に他クラブのメンバーも多数参加し、チーム

を支援しました。元クラブ会長のジェイン・ウオンが、献血者にケーキ引き換え券を配り、支援しました。

写真:献血会場に集まった献血者、支援者

出典:フェイスブック

インド:オンライン授業を支援するノートパソコン

インド・バンガロール・ワイズメネットクラブは、教育分野におけるプロジェクトにクラブ創設以来取り組み、バンガロールにあるインドラ・ナガール・コンポジットPU大学の教員に20台のノートパソコンを寄贈する計画に積極的に参画しました。このおかげでインドを襲ったパンデミック下でもオンライン授業を効果的に進めることが可能になりました。

バンガロール・ワイズメネットクラブの今回の促進事業の責任者であるニルマラ・アショクは、この大学の教員のPC設定、訓練のため現地専門業者のパブリシス・サピエントとの連絡・調整業務に係りました。上の写真は、ニルマラ(右から3人目)がパブリシス・サピエントのスタッフからPCを受け取っているところです。



バンガロール・ワイズメネットクラブ書記、ティナ・コシー

インド:食料キットの配布事業



ナグプールナオレンジシテイ・ワイズメンズクラブは、支給されたTOF資金を活用して、ムレ記念病院で治療を受けているエイズに感染した50家族に食料品キットを配りました。長期的な目標は、マナヴ・セヴァ基金と提携して、毎月、栄養食品を届けることです。

左の写真は、今回の事業で恩恵を受けた家族の人々と、この事業を支えるワイズ会員です。

ナグプールオレンジシテイ・ワイズメンズクラブ書記、
アジット・カッペン

カナダ:シャーロットタウンのフードドライブが 35 年目に突入

元地域会長、マーレイ・ダンバーは、シャーロットタウン・ワイズメンズクラブのフードドライブ委員長のビル・アーウィンに話を聞きました。ビルは、元地域会長で現在は、カナダ・カリブ海諸国地域のブリテン編集長を務めています。下の写真は、シャーロットタウン・ワイズメンズクラブの会長、マリタイムズ区次期理事のブレア・カトリフとのものです。



ワイズメンのビル・アーウィンとブレア・カトリフ、準備完了です。

シャーロットタウン・ワイズメンズクラブの第1回目のフードドライブが1987年だった事をご存じでしたか。ビル・アーウィンとの会話で以下の事を教えてくれました。フードドライブは、その昔、ワイズメンズクラブと共にウェイン・マッカーリーが始めました。始まりは、シャーロットタウンのもとの地域だけで、その後シャーロットタウンの他の地域にも広がり、やがてコンウォールにも展開して行きました。

ビルは、ワイズメンズのフードドライブの思い出をこう語っています。最初の年に彼らは、1回りのプロジェクトだろうと思っていたそうです。ビルと他のワイズメンは、翌年もまだニーズがある事に気付きました。そこで、また、次のドライブを行い、更に次のドライブを行ったのです。そして、後は、歴史になったのです。

この場をお借りして、困っている人たちに影響を与え、そして長年にわたって数えきれない程の時間と何百人ものボランティアおよびビル・アーウィンとこの様な活動を続けている素晴らしいワイズメンの皆さまにお礼を申し上げます。

元地域会長 マーレイ・ダンバー

スリランカ:安心・安全な暮らしのために

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、スリランカのあるワイズメンズクラブは、スリランカでの活動の歴史の中で、最も価値のある地域奉仕を行うという偉業を成し遂げることに成功しました。

ヤング・モラトゥワワイズメンズクラブは、6パーチの貴重な区画(約150平米、1,600平方フィート)を、それに相応しい家庭に贈りました。クラブから贈られた土地は、首都コロomboから約40キロメートル、西部州、ホラナ県ゴナボラに有ります。また、その評価額は、900,000ルピー(約4,500米ドル)です。

出典:ワイズメンズクラブ国際協会・スリランカブリテン(2021年1月~3月号)



元理事ブラサンタ・デ・シルバから感謝する家族へ土地の所有権証明書が手渡されました。

カナダ:クリスマスには、本物のツリーが必要



新型コロナウイルスにより木の手入れや伐採が出来る労働者をツリー業者が見つけれず、クリスマスツリー不足は、現実のものとなっています。

カンバーランドYサービスクラブは、募金活動としてのクリスマスツリーの販売を行って、もう48年になります。今年は、ツリー不足のためにほとんど販売を諦めかけました。私たちは、販売用のツリーを見つけるために6つの供給業者に当たりました。

ノヴァスコシア州の業者から、限られた本数ですが、入手する事が出来ました。10フィート(3メートル)の高木をはじめ、様々なツリーが有ります。ツリーの置き場所は、ケント建材の駐車場です。

テリー・マクドナルド/カンバーランドYサービスクラブ

100 周年記念祝歌

「より良い場所に」

曲: ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの交響曲第 9 番 (歓喜の歌)

1. あえて我らは、
どこで我らは、分かち合うべきなのか？
なぜ我らは、思いやれるのか？ YMI！
勇気を奮って行動しているか？
分かち合っているか？
我らは、思いやっているか—なぜに私は？
ワイズメンは、勇気を奮って行動し、
分かち合い、思いやり、
周りの世界と対峙し、
他者を助け、
兄弟姉妹を助け、
世界は、より良い場所となる！

2. 100 周年の祝い祭、
年を経て、
運動は、継続する—YMI！
祝辞を述べよう
祝典を祝おう
決して問うことなく：なぜに私は？と、
他者に目を向け、
兄弟姉妹に目を向け、
互いに顔を見合わせ、
他者を助け、
兄弟姉妹を助け、
世界は、より良い場所となる！

3. 前進しながら、
行動で示しながら、
YMI を構築しながら！
人との繋がりを構築し、
つかもうとする
増える好機を：なぜに私は？
友と喜びを分かち合えば、
全ての悲しみは、消え去る、
互いに場所を譲り合うときに！
他者に目を向け、
兄弟姉妹に目を向け、
世界は、より良い場所となる！

4. 与えてくれたことに感謝、
我らは、生きている
YMI のクラブライフの中で！
歓喜の音が、
皆の歓喜が、
皆が集い：なぜに私は？
歓喜の歌声が、

もたらすだろう
恵みを受けている全ての人に愛を：
他者に奉仕し、
兄弟姉妹に奉仕し、
世界は、より良い場所となる！

5. ワイズメンは、勇気をもっている
分かち合っている
思いやっている—YMI！
天分を授かり、精神は、高揚する
なぜに私は？と：自らに問いかけるときに、
全ての創造、
解放
我らは互に抱擁できる：
他者を助け、
兄弟姉妹を助けて、
世界は、より良い場所となる！

国際キリスト教強調事業主任、カール・ヘルツ-ジェンセン
ベジエトレカンテン・ワイズメンズクラブ、デンマーク

昔を振り返って

トレドセントラル・ワイズメンズクラブの3人の存命のチャーターメンバーがワイズ運動の創設を記念して記念プレート贈呈式に出席しました。記念プレートは創設者少壮司法官ポール・ウィリアム・アレキサンダーによって設立された家庭裁判所センターの前に置かれています。ここは、最初のワイズメンズクラブが組織された時にトレドにYMCAの建物があった場所です。

写真の人物は、カール・ライアソン；記念プレート贈呈委員長フォード・R・ウェーバー；チャールズ・グロスマンです。



平和の歌を口ずさむ

祝福されよ、主に信頼する人は。主がその人のよりどころとなれる。彼は水のほとりに植えられて木。水路のほとりに根を張り、暑さが襲うのを見ることなく、その葉は青々としている。干ばつの年にも憂いがなく実を結ぶことをやめない。(新共同訳：エレミヤ書17章7～8節)

何年前のことですが、私はビルマの友人を訪れていました。それは、一年で最も暑く最も乾燥している4月のことでした。狭い事務所で椅子に座って、8人の友人たちとビルマ教会の若者の活動について議論を続けようとしていました。エアコンのない事務所は、うだるように暑く、頭上のファンは、今にも止まりそうな速さで回っていたので、その暑さは、いささかも和らぐことはありませんでした。私は、友人たちの発言に耳を傾けることにとても困難を感じただけでなく、議論を続けることに何か意味があるのだろうか、と、いぶかり始めていました。私の座っていた場所から近所が見渡せる狭い窓の外を見ることが出来ましたが、動いている物は何もないように思えました。全ての木には葉っぱがなく、茶色の粉のような埃が辺りの建物、植物、垣根、道路を覆っていたので、まるで生命が全く存在しないように見えました。不快感から私の椅子を動かすと、窓から少しばかり違う景色が目に入りました。その瞬間、私は、驚きで息を飲んだのです。左手にそれまで私の視覚に入っていなかった一本の木が見えました。葉っぱは、ないのですが、その木は、鮮やかな大きな赤い花の房で覆われていたのです。直前まで私の視界を埋め尽くしていた真っ茶色と対照的な鮮やかな赤色が私の倦怠感を吹き飛ばしたことで我に返りました。その瞬間、私には生命が見えたのです。この体験は、マリアとマルタが、キリストが、死から蘇ったのを悟った瞬間の感覚に近いものなのでしょう。キリストは、もはや墓の中にはいなかったのです。最も絶望的な瞬間に希望が湧いたのです。

ことによると、この体験は、ビルマでのその暑く乾燥した日に神が私に与えようとした教訓だったのかもしれませんが。神は、私たちに状況が最も困難で絶望的に思える時に、最も希望に満ちた鮮やかな花を咲かせることを期待するのです。身の回りの全てが崩壊してとてつもないストレスと恐怖をもたらしているように思える時、神は、私たちが蘇りと喜びと希望の比類なき明確な模範となることを望まれているのです。それが世界を変える方法なのです。

私の大好きな歌の一つに「彼は愛を口ずさみながらやって来た。」があります。1番の歌詞は、次のように始まります。「彼は愛を口ずさみながらやって来た、そして愛を口ずさみながら生きた。彼は愛を口ずさみながら息を引き取った。彼は沈黙の内に蘇った。その愛を途絶えさせないように、それを私たちの

歌にしなければならぬ。あなたと私がその歌い手となろう。」最後の歌詞は、次のように終わります。「彼は希望を口ずさみながらやって来た。そして希望を口ずさみながら生きた。彼は希望を口ずさみながら息を引き取った。彼は沈黙の内に蘇った。その希望を途絶えさせないように、それを私達の歌にしなければならぬ。あなたと私がその歌い手となろう。」

死からの蘇りと昇天を通して、キリストは、彼の愛と希望の歌を私たちに託したのです。私たちは、その歌をとりわけ最も困難な状況において声高らかにはっきりと歌わなければなりません。周囲に厳しさ、抑圧、恐怖が溢れている時にこそ私たちは、最もあでやかに咲き誇る花でなくてはならないのです。それがキリストからのメッセージなのです。それがキリストの歌なのです。そして私たちは、土手に沿って植えられた、水にまで届くような深い根を張る木となるのです。

私たちは、うだるような暑さや何か月も続く乾季によって悩まされることはないのです。私たちの葉っぱは、緑色を保ち、美味しい果実を実らせ続けるのです。私たちは、希望であり、キリストの愛の歌い手なのです。



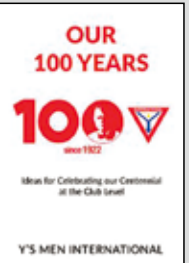
全てのクラブへの祝賀行事開催の呼びかけ

貴クラブと世界中の全てのクラブに対して2022年5月1日～8日の祝賀週間に一つ以上の祝賀行事を開催するように呼び掛けたいと思います。

この小冊子は、全てのクラブがワイズ100年間の友情と慈善活動を祝うよう鼓舞する事を念頭に作成されました。

ワイズメンズクラブ国際協会が今年、設立100周年を祝うことから、貴クラブでの祝い方について100の提案ができなかったかと考えました。100の提案を考え出すことはできませんでしたが、貴方と貴クラブが私たちの思いつかなかった祝い方を見つける事ができるかもしれません。よい考えを思いついた場合は、ワイズのフェイスブックのページで是非お知らせください!

この小冊子はwww.ysmen.org からダウンロードできます。



クラブの指導的立場にあるメンバーに、実施した活動に関する記事を1枚以上の高解像度の写真と適切な短い説明文を付けて送られることをお勧めします。記事は、150語(英語)以内でお願いします。読者の皆さんもグローバルな私たちの運動に関する関心事について、ご意見や原稿をお寄せ下さい。記事と写真はwww.ysmen.org/yimiworldにお送り下さい。

次号掲載記事の提出締切日:2022年2月28日

* マックス・エディガーは、カンボジアの「平和の学校」の運営責任者です。彼は長年のブロガーであり、この記事は、以前のブログに掲載された記事の一つで <http://calebandshalev.wordpress.com/> から転載されたものです。

1986-1998 年の国際会長

61. パトリック・スクマラン



1986-1987の国際会長
ホームクラブ:トリバンドラム(インド)
インドからの初めての国際会長。
インドがアジア地域の区からインド
地域として独立するために尽力し
た。

64. ファン・ダイ・ホ

1989-1990の国際会長
ホームクラブ:ソウル(韓国)
韓国からの2人目の国際会長



62. カイ・ステノ・ハンソン

1987-1988の国際会長
ホームクラブ:ヴェイエン
(デンマーク)
デンマークからの4人目の国
際会長



65. レイチェル・リーグ



1990-1991の国際会長
ホームクラブ:セントルイス
(米国・ミズーリ州)
初の女性国際会長。彼女
以降、女性会長は2人しかいな
い。

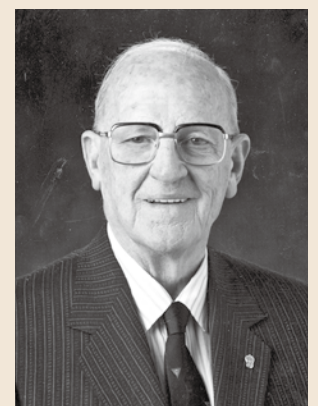
63. ラース・グスタフ・ウィンベルグ



1988-1989の国際会長
ホームクラブ:マルメ(スウェーデン)
スウェーデンからの初めての国
際会長。ワイズの会合での派手な
服装で有名。ワイズ70周年の式典
にて、彼は、アレキサンダー判事に
敬意を表してアービッド・マルメとと
もに蝶ネクタイを締めた。

66. アーサー・カウリング

1991-1992の国際会長
ホームクラブ:ベンディゴ
(オーストラリア・ビクトリア州)
1978年にバランタイン賞を受
賞。1993年にオーストラリア勲章
を受章



1986-1998 年の国際会長

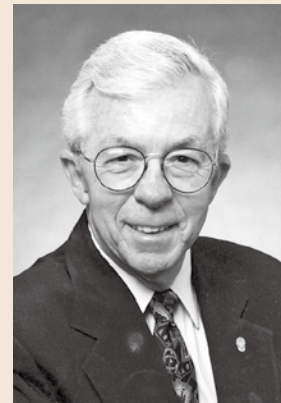
67. アービッド・マルメ



1992-1993の国際会長
ホームクラブ:オステンスタッド
(ノルウェー)

70. クリスチャン・フリルズ

1995-1996の国際会長
ホームクラブ:ベーカーズフィールド
(米国・カリフォルニア州)



68. ドウアルテ・バズ・パチェコ・デ・カストロJr

1993-1994の国際会長
ホームクラブ:サンパウロ
(ブラジル)
ラテンアメリカ初の国際会長



71. デイビッド・G・モリス



1996-1997の国際会長
ホームクラブ:モンクトン
(カナダ・ブランズウィック州)

69. 青木一芳



1994-1995の国際会長
ホームクラブ:千葉(日本)

72. キム・ボン・ヒ

1997-1998の国際会長
ホームクラブ:プサン(韓国)



YMI & YMCA

CELEBRATING 100 YEARS OF PARTNERSHIP IN 2022

YMI と YMCA
2022年、パートナーシップの100年を祝う

BETTER

TOGETHER

IDEALS
IDEAS
IMPACT

理想
アイデア
インパクト

